

予備・司法試験勉強法

# 自己紹介

・ 岩田 憲二郎

2013年3月	愛知県立一宮高校	卒業	
2013年4月	明治大学法学部法律学科		入学
2016年3月	明治大学法学部法律学科		早期卒業
2016年4月	東京大学法科大学院		入学
2016年11月	予備試験	最終合格	
2017年9月	司法試験	合格	
2018年9月	東京大学法科大学院		卒業

# 受験歴・成績

学部GPA：3.65（卒業時）

2014年 H26年予備試験 短答不合格

短答成績：151点くらい

2015年 H27年予備試験 論文不合格

短答成績：191点くらい

論文成績：233.65 445位

憲：F 行：B 民：A 商：C 民訴：C

刑：C 刑訴：F 一般教養：E 実務基礎：B

# 受験歴・成績

2016年 H28年予備試験 最終合格

短答成績：183点 946位

憲：24 行：22 民：24 商：16 民訴：18

刑法：28 刑訴：27 一般教養：24

論文成績：286.54点 52位

憲：C 行：A 民：D 商：A 民訴：A

刑：A 刑訴：A 一般教養：F 実務基礎：A

口述成績：121点 75位

# 受験歴・成績

2017年 H29年司法試験 合格

短答成績：131点 1155位

憲 32 民 57 刑 42

論文成績：973.21点 237位

公法系 103.57点 憲 B 行 C

民事系 198.68点 民 B 商 A 民訴 A

刑事系 123.01点 刑 B 刑訴 A

# 最近人気な勉強法

①基本書を一回り読む

②短答式過去問を何周も解く

（「試験でよく出る」基本知識をここで身につける）

③論文式過去問を何周も解く

（「論文式で知識をどう使うか」を身につける）

- ・独学者かつ早期合格者の勉強法はこれが多いかなという印象
- ・若しくは予備校勢や市販の参考書勢、炎の塔勢など

# 主な勉強内容

- ・目の前の合格者は実際にどう勉強していたのか？も重要
- 学部1年次：基本書通読（2、3周くらい）
- 1年次春休み～：短答式を勉強をし始める
- 2年次夏：Law Practiceなど市販の論文式
- 2年次冬：短答式過去問（2、3周くらい）
- 3年次春：論文式過去問（旧司・予備中心）
- 同時期：ロースクール過去問自主ゼミ
- ロー1年次：論文式過去問＋判例百選や基本書等

# 詳細：学部1年

- ・憲法、民法、刑法、商法、刑訴、民訴、行政法の学内講座をひとつおとり受講
- ・多くの先生が基本書の通読を推薦していたので、基本書を通読
- ・論文式の勉強は夏などに法制研究所で開催される論文講座などを受講したのみ
- ・学内講座終了後の短答式テスト（形式は予備試験などとは全く違う）で成績が芳しくなく、基本書通読以外でやるべきことを考えはじめる
- ・基本書を読むインプットだけでなく問題を解くアウトプットをやり始める（短答式問題）
- ・1年次の学部成績は3.5前後



# 詳細：学部1年

- ・よく基本書通読をすすめられるが…なぜ？  
その先生の最終的な学習法？理想的な学習法？
  - ・インプットのみでの学習法の問題点
    - ①インプットの方法性がわからない（その知識は試験に出るか）
    - ②知識が身についているかわからない（知識の正確性）
    - ③（考え難いが）そもそもそれは最新の情報か？
    - ④その知識をどう使うかは身についているか？
- 私見：インプットとアウトプットのバランスが重要

# 詳細：学部2年

- ・ 1年次春休み～予備短答まで：短答の過去問を解き始める  
（辰巳：短答過去問パーフェクト）法制研においてあった古い版  
上三法と商法・刑訴まで一周解く、短答式の模試（辰巳総択）  
短答式は不合格
- ・ 2年次夏～：問題形式のインプットとアウトプットの練習として、  
論証集（趣旨規範ハンドブック）を片手に市販の参考書を解き始める  
憲法：憲法ガール  
民事系：Law Practiceシリーズ  
刑法：刑法事例演習教材  
刑訴：事例演習刑事訴訟法

# 詳細：学部2年

- ・ 問題演習を中心に
- ・ 短答式をどうやって解いていたか？

短答式を解くのと並行して基本書を読んで復習  
(かなり時間がかかるが…)

- ・ 市販の問題集をどう解いていたか？

趣旨規範本を読みながら時間制限なく答案にしてみる

→答案を見てもらっておかしいところがないか見てもらう

- ・ 2年次の学部成績は3.7前後

# 詳細：学部3年

- ・学部2年の春休み～

短答式過去問（最新版）を2、3周解く

先輩に見ていただき旧司の問題やロースクールの過去問を解く

同級生とロー入試過去問の自主ゼミを開催

辰巳総択模試

- ・学部3年の5月

予備短答式合格

- ・短答式合格後論文の勉強
- ・3年次の学部成績は3.65

# 詳細：学部3年

- ・ 短答式合格後
  - ・ 基本7科目はスタンダード100などの過去問集で旧司法試験・予備試験の過去問を解く
- 答案構成後→参考答案を見るという方式
- ∴とにかく短い時間で大量に詰め込む必要があったため
- ・ 行政法はこれに加えて、「基礎演習行政法」を解く
  - ・ 民訴は柳川先生のゼミで
- Law Practiceをもう一度解く

# 詳細：学部3年

- ・実務基礎科目は弁護士の方に添削していただきながら勉強
  - 基本的には、民事は「新問題研究要件事実」を見たのち、過去問を解いて市販の再現答案を参考に書き方を勉強、より詳しく知りたくなったため、「完全講義 民事裁判実務の基礎〈上巻〉」を読んで新問研に記載のない要件事実の勉強をする。
  - 刑事は過去問を解いて市販の合格答案を参考に書き方を勉強したのみ

# 詳細：学部3年

・H27年予備試験論文不合格

論文成績：2 3 3. 6 5 4 4 5位

憲：F 行：B 民：A 商：C 民訴：C

刑：C 刑訴：F 一般教養：E 実務基礎：B

・反省した点

時間がなく統治・商法総則をスルー

→統治・商法範囲の出題

基本的な論述をし損ねる

→覚えた論証を使ってどこでその論述・あてはめをすべきか？

# 詳細：学部3年

- ・ 夏休み中：ロー入試の勉強
- 受験したロースクールは慶応と東大のみ
- ∴ チャレンジ的意味合いが強かった
- ・ ロースクールの過去問を解く
  - ・ 古い方の「えんしゅう本」を解く  
(短い時間で多くの論点を復習できるので)
  - ・ 慶応ローに合格



# 詳細：学部3年

- ・夏休み後

基本的には旧司法試験・予備試験・ロースクールの過去問の答案作成

- ・趣旨規範ハンドブックに書き足し

いわゆるまとめノート

解き方のパターンや前後につけるべき論証のつけたしなど

- ・選択科目として視野に入れていた倒産法の授業をとる

# 詳細：学部3年

・秋

東大ローの過去問

基礎演習行政法の復習

・冬

旧司法試験・予備試験の過去問を繰り返し解きつつ、

基本書や判例百選の解説などから知識を深めていく

→基本書や判例百選の解説などがある程度頭にすっと入ってくるようになる

私見：基本書・判例百選は「基本」といいながら内容が高度

短い問題である程度基本的な論述を身につけてから読むと、より理解が進むが、最初からすべてインプットしようとするとなかなか難しい

# 詳細：ロースクール1年次

・4月～

予備試験の短答式に向けて短答過去問を解く

ロースクールの予習復習・基本書や判例百選の通読

・5月～

えんしゅう本で旧司法試験・予備試験

模試を受ける

民実・刑実は前と同じ＋実務基礎ハンドブックなど

・8月～

新司法試験の問題の答案構成など

# 詳細：ロースクール1年次

・10月～

## 口述試験の対策

- ・基本的には、口述の過去問を繰り返しやる
  - ・民事実務・刑事実務ハンドブックを読む
  - ・旧司・予備問題の復習や趣旨規範の読み直し
  - ・手続き面の条文に関して、条文の素読
  - ∴民事系は、基本的に要件事実、民訴の手続き面の問題が出る
  - ∴刑事系は、刑法の論文知識や刑訴の手続きや論文知識など全般的に出題がある
- 不合格再現回答はネットに上がっていたりするから見ておこう

# 詳細：ロースクール1年次～2年次

1 1月～

倒産法（選択科目）の勉強

司法試験の過去問を解く＋基本書や百選などで知識補強

旧司・予備・趣旨規範で知識の確認

4月～

少し短答の勉強をしながら繰り返し司法試験の過去問を解く

5月

司法試験受験→合格

具体的な勉強内容は以上

# 僕が考えた明大生最強の勉強法

- ・まずは基本書をひと通り読む（or辰巳の学内講座を受ける）
- ・次年度の予備試験に向けて短答過去問を解きながら基本的な判例知識・条文知識を身につけよう
- ・短答に区切りが済んだら、論証集を片手に論文式（旧えんしゅう本・旧司法試験・予備試験）の勉強をして、三段論法などの基本的な書き方を学ぶ（実際に答案を作成する場合、予備に関しては上位答案の参考答案があるとなお良し）
- ・論文をひと通り解き終わったが、結局理解できなかった問題や、一応解けるけど理論的には消化できていない問題などは、基本書・判例百選などを読んで理解する

# 予備試験受験のすすめ

## メリット

- ①受験のたびに自分の実力がわかるので、どんなインプットをすべきか、どんなアウトプットをすべきか毎回気づきがある
- ②勉強のペースづくりになる  
(5月までにこれやって7月までにあれやって~など)
- ③司法試験合格率約70%
- ④四大・TMIなどの大手を狙うなら就活で有利
- ⑤でもお高いんでしょう？  
→今ならたったの17,500円！（高い）

## デメリット

- あまりのびのびとした学生生活を過ごせない
- 勉強のペースが予備試験のスケジュール基準になる

# 短答式の心得

## 【短答は結局は暗記なので繰り返しの自学自習が大事です】

- ・ 忘れがちだが、結局これが大事です
- ・ 短答式の過去問を繰り返し解いて、正確な知識を身につけましょう。
- ・ 模試は受けるとよいです（本番より難しいが、知識の確認になる）
- ・ 意外と短答式のハードルは高い、ということを忘れないように  
270点中170点前後が合格点だが…

うち60点は一般教養なので比較的運要素が強い

7科目すべてで7割をとっても $21 \times 7 = 147$ 点なので、一般教養の点数によっては十分に不合格になりうる。



# 論文式の心得

- ・ **論文 1 回目は落ちやすい傾向にあるので、早めに短答に受かること**
- ・ 論点としては旧司法試験・新司法試験・予備試験口述で出たことのある論点の焼き増しが多い
- ・ 正直なところ、あまり現場志向的な問題はないので、基本的知識でのりきれるところが多い
- ・ 模試は受けたい（最近はや練チックな問題も出題される）
- ・ 三段論法を守ること
- ・ 論点のところ（問題意識）規範・あてはめを絶対に書く
- ・ 問題文中の誘導を見逃さない（特に近年の憲法は露骨な誘導がある）

# 論文式の心得

・どのくらいの成績をそろえる必要がある？

論文成績：2 3 3. 6 5 4 4 5位

憲：F 行：B 民：A 商：C 民訴：C

刑：C 刑訴：F 一般教養：E 実務基礎：B

これは私がH27で論文式を落ちたときの成績

自分で書いてて恥ずかしいですが、H29年、H30年の論文式の合格者数は469人、459人なので、このレベルの成績でも受かるということになります。

つまり、だいたいB、C答案をそろえれば合格するわけですね。

行政や実務基礎はB以上がとりやすい（体感）ので、そこまでハードルは高くないはずです。

# 口述式の心得

- ・ 過去問を絶対に手に入れよう

(辰巳の民事実務・刑事実務ハンドブックに再現があります)

若しくは、伊藤塾の口述模試で過去問の再現が配られます

- ・ 模試は**絶対に**受けよう！

(口述の緊張感は模試以外ではあまり味わえない)

・ 論文では問われないような条文知識・手続き面の問題も出るの  
で条文番号まで覚えておく和良好的 (本番では試験官の断りが  
なければ条文をみることができないため)

- ・ 論文の知識もしばしば問われる (特に刑事実務)

# 最後に

- ・今から短答の勉強初めてもギリ短答受かる可能性があるので、**来年の予備試験は絶対に受験しよう**  
(勉強の計画は立てた方がよい)
- ・願書交付は1月4日から2月1日まで
- ・願書受付は1月21日から2月1日までと、意外と試験日から遠い時期に申し込みをしなければいけません。要注意！

**ご清聴ありがとうございました！**